

## 学生同士の助け合いで新しい社会の基礎を！

大学生協連会長理事 庄司興吉

多数の組合員の参加と、各大学関係者の方がたのご支援をいただいたおかげで、私たち大学生協の学生総合共済事業は、正式発足から今年で29年目となりました。今年からは1年ごとに更新していく新しい共済が開始されています。これを機会に、この事業の最大の意義が学生同士の助け合いにあることを、あらためてご理解いただきたいと思います。

ご承知のように昨年来、グローバル化の流れのなかで金融危機が経済危機に深化しつつ日本をも巻き込み、学生および保護者の方がたの経済的社会的状況が不安定の度を高めています。それに加えて、地球温暖化などの影響も加わって、日本社会の宿命ともいべき地震災害だけでなく、台風などにもなう天災、人災も増えてきています。

そのうえ、現代社会は世界的規模の「リスク社会」などといわれるように、文明が高度化し、生活手段や交通通信手段などの利便性が格段に高まってきた反面、さまざまな事故のリスクもそれだけ高まってきています。学生たちの多くが、保護者の失業や病気の影響を受けるだけでなく、通学やアルバイトや旅行などの途上で事故に遭遇してしまうケースも少なくありません。

こうしたさまざまなリスクに対処する一般的な方法としては保険があり、学生や保護者の多くがなんらかの保険に入っていることが多いのも事実です。しかし、大学という場および学生時代という特定の時期にはそれにもなうさまざまなリスクがありますので、一般の保険の他に、学生であることを全うし社会人になるまでの時期を保障する仕組みがぜひとも必要です。昨今は、それを見越して、初めから学生を対象とする保険などが、大学のなかに入り込む場合も出てきました。

しかし、学生たちに本当に必要なのは、学生たちが自分たちで自分たちの状況を見つめ、自分たちがもっともよく分かる生活や勉学の状況に即した、お互いの助け合いの仕組みを維持していくことです。学生総合共済が始められたのはそういう理由からであり、今日まで学生たち自身の努力で伸びてきたのもそういう理由からでした。

共済には単なる保険とは違った特別の意味があります。学生たちがお互いに助け合いながら成長していく過程で、協同し協力することを身体で学んでいくほど、21世紀の社会にとって大切なことはないでしょう。昨年から今年にかけてアメリカと日本で相次いで政権交代が起こり、新しい社会への胎動が身体で感じられるようになっていきます。私たちはそういうなかで、学生たちの成長を願いながら、この事業を広め、これからの大学と社会づくりに貢献していきたいと思っています。どうかこれからも、関係各位のご協力をお願いするしだいです。

(学生総合共済事業報告 09-091115)